

一般社団法人日本音楽療法学会 中国支部
第 21 回支部大会・第 27 回講習会 <山口大会>
♪ 第 1 次案内 ♪

期 日 : 2023年5月27日(土)・28日(日)

会 場 : 山口県総合保健会館
〒753-0814 山口市吉敷下東3丁目1番1号
TEL : 083-934-2200

大会準備室 : 日本音楽療法学会中国支部第21回大会準備室(担当:金澤)
お問い合わせ E-mail:mtcyuugokusibutaikai@gmail.com

主 催 : 一般社団法人日本音楽療法学会 中国支部

ごあいさつ

第21回日本音楽療法学会中国支部大会
大会長 仮屋 瑞穂

第21回日本音楽療法学会中国支部大会並びに第27回講習会を、2023年5月27日(土)28日(日)、山口県総合保健会館にて開催させていただくことになりました。山口大会を計画し3年越しの開催となります。しかし現在もコロナ禍ということは変わりませんので、現地で皆さんに直接お目にかかれるように祈るばかりです。

山口での大会のテーマは、「音・音楽の力とは」です。コロナ禍において他者との距離の取り方をはじめ、様々な制限の中で音楽することの意味を考え悩まれた方も多いと思います。その経験を通して改めて「音・音楽の力」や、これからの音楽療法を考える場になればと思います。

豊かな自然や歴史の共存する山口市で、皆様のご参加をお待ちしております。

プログラム

- 5月27日（土） 講習会**
- 10:00～11:00 受付
- 11:00～12:30 第1講『発達臨床心理学からみる音楽療法の可能性
－「からだ」、「こころ」、そして「関係性」を通して』
講師：木谷 秀勝 先生
- 12:30～13:30 休憩（昼食）
- 13:30～15:00 第2講『児童福祉施設に音楽療法を導入し維持していくために』
講師：中田 哲也 先生
- 15:10～16:40 第3講『エピソード記述による音楽療法の質的研究
－ 実感を描き、実践を深める省察について』
講師：山本 知香 先生
-
- 5月28日（日） 支部大会 大会テーマ『音・音楽の力とは』**
- 9:15～ 9:50 受付
- 9:50～10:00 開会式
- 10:00～12:00 基調講演
『音や音楽の力 ～つなぐ・つながる・共にある～ 』
講師：山下 恵子 先生
- 12:00～13:30 休憩（昼食）
※12:50～13:20 支部総会（ランチオンセッション）
- 13:30～15:00 シンポジウム
『今、音・音楽を考える』
- 15:10～16:15 研究発表
- 16:15～16:20 閉会式

第1講 11:00~12:30

『発達臨床心理学からみる「音楽療法」の可能性

—「からだ」、「こころ」、そして「関係性」を通して』

木谷 秀勝 先生

(山口大学教育学部附属教育実践総合センター 教授 臨床心理士 公認心理師)

臨床心理士として、子ども達の成長を支援しながら感じる課題は次の3点です。第1に、睡眠等を含めた日常生活のリズムの問題、第2に、リフレッシュ(ホッと)できる時間・空間の欠如の問題、第3に、他者との言語的・非言語的コミュニケーションのバランスの問題です。今回の講義では、最初に発達臨床心理学の知見から3つの問題点を整理します。次に、演者が専門としている臨床描画法の基本的視点である「からだ」、「こころ」、「関係性」からのアプローチを紹介します。最後に、近年の脳科学で注目されている社会脳(Social Brain)が果たす役割の重要性を通して、音楽療法がもつ可能性について検討します。

第2講 13:30~15:00

『児童福祉施設に音楽療法を導入し維持していくために』

中田 哲也 先生

(社会福祉法人旭川荘 児童発達支援センターみどり学園 臨時児童指導員兼音楽療法士)

まず、演者が音楽療法士となり現在に至るまでの音楽療法歴について述べます。
次に、現在所属している事業所に音楽療法を導入することになった経緯について紹介します。
最後に、導入された音楽療法を維持していくために必要な要件を、人的資質(様々なアプローチや手法などを含む)・環境的要件に分類して整理し、考察していきます。

『エピソード記述による音楽療法の質的研究』

－実感を描き、実践を深める省察について』

山本 知香 先生

(滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター)

多くの音楽療法士は、実践において、音や音楽が相手の心にどのように届いているか敏感にキャッチしているだろう。そして、相手から受け取った印象をもとに、自分の心を動かし、奏でる音楽を変化させ、次の展開を考えているのではないだろうか。これらの内容は、目に見えて明らかなわけではないため、それが実践の中身を大きく左右している場合があるにも関わらず、客観的・量的研究では扱うことが難しい。

そこで、本講習では、体験の「目には見えないところ」の意味を考え、伝え、対話に開くことで実践を深める質的研究、「エピソード記述」(鯨岡, 2005)について紹介する。「エピソード記述」では、行動的事実の背景で動く、実践者の実感を描くことから省察し、研究をすすめていく。

たとえば、Aちゃんという自閉スペクトラム症のある女の子が打楽器を鳴らし、音楽療法士(私)がピアノを演奏する場面について。関わりの初期には、私がAちゃんの様子をつぶさに観察し、テンポの揺れや強弱の変化にぴったり合うように、かといって、押しつけがましい音を出さないように、繊細に注意を払ってピアノ弾くことで、なんとか「共に演奏する場面」が生まれていた。しかし、月日を重ねるうちに、馴染んだ関係になり、初期の頃のように必死にAちゃんの動きを追わなくても、自然に共に演奏できるようになった。演奏するにあたって、Aちゃんの意識が変わり、私の持ち出す心的な労力がかなり減ったということである。そこには、Aちゃんの内面の変化や、私との関係性の深化を読み取ることができる。しかし、私の実感を削ぎ落とし、行動的事実のみを描くと、いずれも「打楽器とピアノを共に演奏するAちゃんと私」となり、大事な差異を表現できなくなってしまうのである。

このように、描きたいことがうまく描けないというもどかしい体験が思い当たる人や、何か立ち止まって考えたいことがある人にとって、「エピソード記述」による省察は、実践を理解し直し、深めるための大きなチャンスとなる。「目には見えない」から研究しないのではなく、「目には見えないところだからこそ」描いて、関与の質を問い直すべきなのではないだろうか。

講習では、「エピソード記述」について理論的背景を含めて紹介し、具体的なワークを交えることで、研究のきっかけとなるような時間を提供できればと考えている。

大会 5月28日(日)

大会テーマ『音・音楽の力とは』

◎基調講演

『音や音楽の力 ～つなぐ・つながる・共にある～』

山下 恵子 先生

(宮崎国際大学 学長)

ちょうど今から3年前に講演の依頼を頂きました。まさか、その後の3年間で音楽療法実践者にとって厳しい時代になるとは夢にも思っていませんでした。

3年間のコロナ禍を通して、音楽療法士は、セラピーができない、オンラインセラピー、マスク、フェースガード着用と自らの存在価値を問われる現実に遭遇しました。セラピーを中断したり、再開したりしながら、私は、コロナ禍で出会うことができた対象者から、音楽療法の本質を学んだように思います。

本講演では、音楽療法士の皆さまと一緒に「音や音楽の力」を「つなぐ・つながる・共にある」の観点で考えたいと思います。コロナ禍の体験によって、3年前に考えたタイトルは、新たな側面からも考えられるようになりました。特に、今回は「つなぐ・つながる・共にある」を個々に考えるのではなく、スペクトラムとして臨床現場から追ってみます。

当日は、大会テーマである「音や音楽の力」に焦点を当てながら、お話しさせていただきます。

【講師プロフィール】

人文科学博士。日本音楽療法学会認定音楽療法士。臨床心理士。公認心理師。

平成元年より宮崎女子短期大学(現 宮崎学園短期大学)にて教鞭をとり、平成18年より教授。

平成26年8月より学校法人宮崎学園理事長。令和4年4月より宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園園長。

宮崎学園短期大学こども音楽教育センター、カリタスの園つぼみの寮にて、音楽療法及び心理査定・支援を行う。著書は、『音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー』(共著)春秋社 2002年、『音楽療法ハンドブックー看護と福祉領域のためのー』(共著)星雲社 2014年。

◎シンポジウム

『今、音・音楽を考える』

「今、音・音楽を考える」というテーマで、3人の方に話題提供していただき、現地開催だからこそ皆さんと直接意見交換できる場になればと期待しております。

コロナ禍において、さまざまな制限下で活動を継続してこられた方もおられれば、活動を行う事自体が難しかった方もおられると思います。しかしまた、活動の在り方を模索する中

で、対象者と向き合うこと、現場での音楽療法士としての立ち位置、音楽療法の意味など、多くの気づきや学びも生まれているのではないのでしょうか。

それらを共有しながら、音・音楽について、そして、今だからこそ出来ることについて、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

演題発表募集のご案内

1. 応募資格について

研究発表申し込み時点で、日本音楽療法学会の会員であること。

2. 演題申し込み方法について

- ・日本音楽療法学会中国支部ホームページ (<http://jmta-cc.org>) へアクセスし、「研究発表申込フォーム」 (<https://forms.gle/hkvGmNpYpw9DyDLR7>) へ必要事項をチェック・記載の上、送信してください。記載いただいた個人情報は、研究発表受付業務にのみ使用します。
- ・演題原稿は、大会準備室へメール送信してください。
メールアドレス：mtcyugokusibutaikai@gmail.com

3. 演題原稿の体裁について

- ・図面も含めてA4サイズ1枚（48字×40行・文字サイズは10ポイント明朝、タイトルは12ポイントゴシック太字）におさめてください。
- ・日本音楽療法学会中国支部ホームページ (<http://jmta-cc.org>) へアクセスし、「研究発表演題原稿様式」をダウンロードしてご使用ください。
- ・事例研究の場合は「対象者および目標」「方法」「経過および結果」「考察」を、その他の場合「研究の目的」「方法」「結果」「考察」「結語」を簡潔に記載してください。

4. 発表方法について

- ・事例研究または学術研究の発表で、口演発表またはポスター発表となります。
口演発表は **30分（発表20分、質疑10分）** で、発表の際使用できる機材はPCパワーポイントです。ポスター発表は、発表当日の指定された時間に発表者が在籍することとします。
- ・研究発表申込フォームにて、口演発表かポスター発表か、ご希望の発表形式をご記入ください。なお、研究発表の内容や応募数によっては、ご希望に添えない場合もございますので予めご了承ください。
- ・採択の可否につきましては、**4月中旬**を予定しております。

5. 演題申し込みの注意点

- ・発表は、本学会および他所においても未発表のものに限ります。
- ・対象者のプライバシーを侵さないように、十分配慮してください。

6. 演題募集期間

2023年3月1日（水）～3月31日（金）

7. 承諾書・同意書について

- ・演題発表にあたり、対象者（または保護者）、施設長（または病院長など施設責任者）に事例発表の内容および目的・方法などについて説明し、発表について同意を得てください。
- ・承諾書・同意書は厳重に保管し、必要な時にはいつでも提出できるようにしてください。
- ・承諾書・同意書の書式例は、日本音楽療法学会中国支部ホームページ (<http://jmta-cc.org>) でダウンロードできます。

参加申し込み方法

1. 参加資格について

参加申し込み時点で、日本音楽療法学会の会員であること。

2. 参加申し込み方法について

日本音楽療法学会中国支部ホームページ (<http://jmta-cc.org>) へアクセスし、「申し込みフォーム」 (<https://forms.gle/Z8RbxvsQA5r7zUcx6>) へ必要事項をチェック・記載の上、送信してください。記載いただいた個人情報は、大会受付業務にのみ使用します。

3. 参加費について

本大会・講習会の参加費は無料です。

4. 申し込み締め切りについて

2023年5月20日（土）

※本大会・講習会では当日参加の受付は行いません。

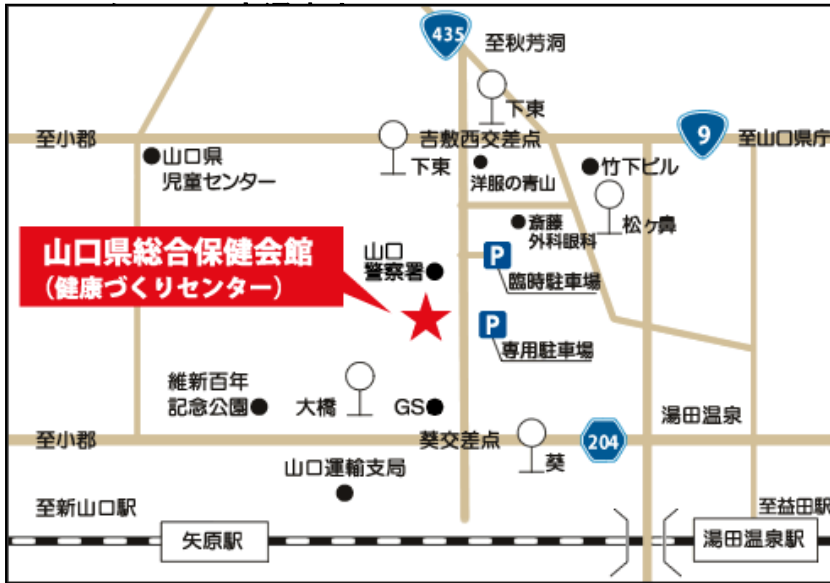
参加を希望される方は、締め切りまでにお申し込みいただきますようお願いいたします。

5. 宿泊について

宿泊の手配は各自で行ってください。宿泊についてのお問い合わせは大会準備室ではお受けすることができませんのでご了承ください。

6. 昼食について

お弁当の事前申し込みはありません。昼食を持ち込まれる場合、研修会場で食事が可能ですが、ごみは各自お持ち帰りください。会場付近には、徒歩圏内にファミリーレストラン 1 軒、コンビニエンスストア 1 軒がございます。



山口県総合保健会館

〒753-0814

山口市吉敷下東3丁目1番1号

湯田温泉駅下車

駅から約2km

(徒歩約25分、タクシー約7分)

◎車でお越しの方は

中国自動車道

小郡ICから約6km

山陽自動車道

防府東ICから約25km